

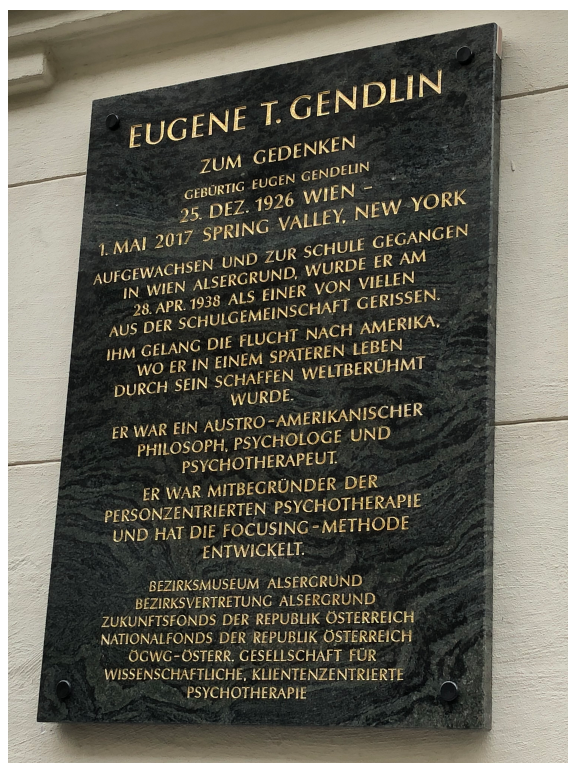
A Pilgrimage to Eugene Gendlin's Vienna

ユージン・ジェンドリンのウィーンへの巡礼の旅

Akira Ikemi, Ph.D.

池見 陽 意識

ユージン・ジェンドリンのメモリアル・プレートは、
彼が通ったウィーンのギムナジウム *Erich Fried*
Realgymnasium の外壁に設置されていた。ジーン
(ユージン・ジェンドリンのあだ名) が
Ehrenzeichen der Stadt Wien (ウィーン名誉市民)
だったから、このプレートの除幕式にはウィー
ン市長も参列した。それは今年5月のことだっ
た。それから2ヶ月後、 ロール・コーベイ
(Lore Kobei) が「ジェンドリン・ウオーク」と
いうオプションツアーをウィーン大学で開催
された〈世界クライアント中心療法及び体験過
程療法学会〉の際に企画した。世界各国から28
名が参加した。



ジーンのウィーンでの生活のことを知りたい僕たちは、
地下鉄U1線を *Shottenring* の駅で下車して地上にあがっ
た。地面に足が着いたとたん、ロールの声が聞こえた、
「左手を見るように」、と。そこには豪華な（日本的に
言えば）「マンション」が建っていた。ウィーン第9区、
Rossauer Lande 通り25番地、ここがジーンの生家だった
(写真)。彼はここで11歳になるまで暮らしていた。建
物の中から外を見ると、通りを隔ててドナウ川の運河で
ある *Donau Kanal* とその両岸の緑多い公園が目飛び込
んでくるだろう。ジーンのニューヨーク・ウェストサイド

のアパートもそうだった。窓の外にはハドソン川と公園が見えていたことを僕は思い出していた。さて、ウィーンに話を戻すと、ユダヤ人の多くはここ第九区に住んでいた。ロールはここはブルジョアの地域だと話していた。そして彼女は、ジーンがドイツ語で話すと、微かにブルジョア・ユダヤ人の訛りが聴きとれたと言っていた。



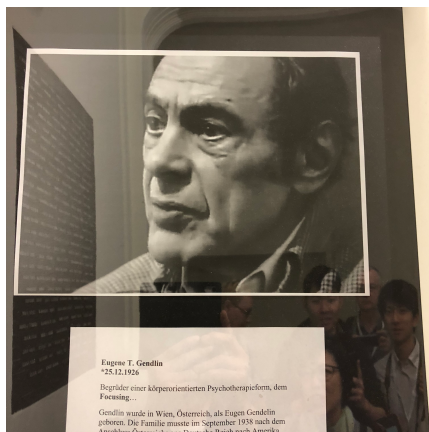
私たちは1ブロックほど通りを歩き、左折して運河を背に歩いた。すぐにジーンが通ったギムナジウム（私立進学校）に到着した。そこで待っていてくれた歴史家であるドクター・ウーバネック（ドクターは博士の意味：Dr. Urbanek）がこの先はガイドしてくれた。（写真：ベンチ上がドクター・ウーバネック、中央がロール・コーベイ。）1996年にジーンがウィーンに来た

とき、このギムナジウムに立ち寄り、歴史教員だったウーバネック博士の11年生の授業で生徒たちと交流したのだった。

ウーバネック博士はギムナジウムの中を案内してくれた。ある内壁には多くの名前が書かれた銅板が飾られていた（写真）。ここに名前のある学生たちは1938年4月28日、ナチス支配下の学校から

突然「退学」させられたのだった。彼ら

のうち、後に消息が判明したのは10名にも満たないそうである。ジーンの当時の名前である Eugen Gendelin もこの銅板に刻まれている。その壁と直角になっている別の壁にはジーンの写真が飾られていて、その下には学年別に、いわば「仕分け」された生徒たちの名前が記



載されていた（写真）。ジーンの名前は 2 Klasse にあった。彼は当時は11歳、ギムナジウムの第2学年生だった。

ジーンが11年生の授業を終えたあと、階段（写真）のところでロールを呼び止めた。学校の臭いが彼にフェルトセンスを呼び覚まし、「いま、すべてが戻ってきた」と話した。忘却していた記憶が雪崩のように迫ったきたのだろう。ジーンの目には涙が浮かんでいた。ロールは別の機会に、ジーンについて次のようなことを語ってくれた。ジーンは「ウィーンの人は怖くない、でもウィーンの建物は怖い」と言っていた。ウィーンの建築物は1938年からほとんどかわっていない。きっと街を眺めるジーンの眼差しには、苦しかった過去がフラッシュバックしていたに違いない。

僕たちは学校をあとにして20分ほど歩きBezirksmuseum Alsergrund という小さなミュージアムを訪れた。ここで

は、今年の10月まで「ユージン・ジェンドリン特別展」が置かれている。この

ミュージアムの地上階でコーヒーとウィーンのパンで茶話会があった。その席で、ロールはナチス支配下のウィーンからの脱出を描いたジーンの自伝を朗読した。この原稿を僕は何度も読んだことがあるし ([https://](https://www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2181.html)

www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2181.html)、日本

語訳も存在する(http://www.focusing.org/jp/eugene_gendlin.pdf)。しかし、ここウィーンで聴くと、一つ一つの言葉に歴史の重みが染み込んでいた。私たちはミュージアムを後にし、市電にのって Schottentor の地下鉄の駅まで向かった。そこでこの「ユージン・ジェンドリンのウィーンへの巡礼」が幕を閉じた。Special thanks to Lore Korbei and Dr. Urbanek.



ユージン・T・ジェンドリン 1926 ウィーン ～ 2017 ニューヨーク。
彼は1938年4月28日に学校の仲間たちから引き裂かれ、アメリカ合衆国に渡り、そこで、著名なオーストリア系アメリカ人哲学者、心理学者、心理療法家となった。彼はクライエント中心療法の共同創立者及びフォーカシング・メソッドの創立者である。（メモリアル・プレートより）